JACAS WS パネル・セッション主旨説明

パネル・セッション

資源管理から見る帝国統治と中央アジア
――土地・家畜・水・人――

＜主旨説明＞

秋山　徹

18 世紀中期から 20 世紀初頭にかけて、中央アジアはロシアと清というふたつの帝国の支配下に組み込まれ、その周縁に位置づけられていった。近年、これら二大帝国が中央アジアをどのように統治したのか、そして帝国統治下の現地社会側のうごきをめぐって、政治、宗教、社会、経済史をはじめとする様々な側面から、公文書館（檔案）史料の精査にもとづく研究が豊富に蓄積されつつある。そうした作業のひとつひとつは非常に精緻ではあるものの、他方で、それらの蓄積から全体としてどういうことが言えるのかということは顧みられていないのではないだろうか。そこで本パネル・セッションでは、そうした多様な作業をくくるキーワードとして、「資源」を設定した。「資源」という言葉からは様々なものが類推されうるが、本セッションでは「土地、家畜、水、人」を取り上げ、それぞれの側面で近年数々の業績を積み重ねつつある中堅・若手研究者の方々にご登壇いただいた。

（早稲田大学イスラーム地域研究機構）